



教会長 高橋健雄

初代教会長増田金太郎師は、明治二十五年、初代横浜教会長福田助次郎師のもとに入信し（助次郎師二月に布教され、翌三月にすぐ入信）、翌年神奈川七軒町で布教され、神奈川教会を創設されました。ご比礼を頂きましたが、明治三十一年家業の整理のため退任されました。明治三十五年二月新たに藤沢で布教を始められ、その年六月九日教会設立許可が下り、県下五番目の教会が誕生し令和四年百二十年を迎えました。

布教開始僅か一年二ヶ月後、現在地に教会が新築移転され、今日に至っております。初代金太郎師亡き後、ご養子の坪内健次郎師が継がれましたが退任され、昭和十八年六月に三代教会長として

藤沢教会

設立 一九〇二（明治三十五）年
六月九日

住所 〒二五一一〇〇五二 神奈川県藤沢市藤沢一―九―八
電話 〇四六六一二二一〇〇〇四
交通 ①藤沢駅（JR）北口バス8番「藤沢公民館前」下車徒歩三分
②藤沢本町駅（小田急）より徒歩八分

高橋喜一師が就任され、平成十八年迄六十三年間教会長の御用を勤められました。その後四代教会長高橋紀代士師が後継されました。平成二十八年から現五代教会長になりました。

三代教会長の時より教職舎建設、会堂新築、長年の願いの教会境内地の購入、教会墓地内に信徒用共同墓地の建立等々のおかげを頂いて参りました。又、信奉者活動では、信徒会、輔教会、典楽会等活発な活動が展開されております。

『人の力には限界がある、これを悟れよ。人の力の及ばぬ処に神の力がある。天地金乃神は万能の神ぞ。信心して「おかげ」を頂け』
これを、教会の信心の基として日々を進めさせて頂いております。



教会長 鈴木重光

初代によって蒔かれた信心の種が、幸之助師、祐師、重光師と受け継ぎ伝えられ、四代に亘って御取次の働きが現わされて参っておりますこと

金光教野毛教会は、明治四十五年(大正六)年に元の神奈川教会長福田源三郎師が野毛布教を志したことに始まりました。しばらくして源三郎師は事情があつて神奈川教会に引き上げることになり、当時熱心に参拝されていた鈴木安太郎師が家業をやめられ、布教所に常在して御用をされるようになりました。やがて教師を拝命され、専心布教に当たられるなか、大正六年八月に、金光教野毛教会が設立のおかげを頂き、以来多くの人が助けられ、誠一筋に終生道の御用を仕えられました。

住所 〒二二三一〇〇六四 神奈川県横浜市中区野毛町二一七九
電話 〇四五―二四一―〇〇二八
交通 ①桜木町駅(JR)より徒歩五分
②日の出町駅(京浜急行)より徒歩五分

は、神様、霊神様のお働き、お守りがあつてこそと思います。

また、信徒の皆様の高い信念と熱意に励まされてのことでもあります。

今にして思えば、関東大震災、そして戦災と二度の大きな災難に遭い、まさに「神量いは奇しくて」の今日であります。



教会長 櫻井信一

鎌倉稲村ガ崎教会

設立

一九三二（昭和七）年

十一月四日

住所 〒二五二一〇〇〇一 神奈川県鎌倉市稲村ガ崎四一六一一五
電話 〇四六七一三七一八〇五〇
交通 稲村ヶ崎駅（江ノ島電鉄線）より徒歩四分

初代教会長櫻井浅次郎師の強い信念と信心の下に鶴見教会は誕生^{注1}した。長男の源吾は尼崎に入信、副教会長と信徒総代を務める。昭和三年鶴見区菅沢に転居、自宅神前で祈念し続け、次第に参拝者が増え御用に専念する。

昭和五年に教師補命、神奈川教会の手続きを持って七年に会堂建設、開教する。戦災で焼失後、昭和二十九年に旧会堂完成、初代浅次郎師の強い信念は多くの教え子を育て、また手続きも八指を数える。信徒会、婦人会、青年会の他、ボーイスカウト活動を進め、特にガールスカウトは神奈川第一団として活動（移転後も鶴見で活動中）。また典樂については現在まで八十年の歴史を有する。

長男源吾師は副教会長と

して川崎、熱海南に布教、その傍ら昭和二十三年より医療に進出、病院を複数経営し、昭和五十一年には鉄筋六階建ての会堂を建設、その中に一般財団法人やつなみ会及び医療法人新光会本部（医療は静岡二ヶ所、川崎一ヶ所、新潟一ヶ所の計四ヶ所、他静岡に老人ホーム、町田にクリニックを開設）を内包し、地域社会に広く門戸を開放した。浅次郎逝去後、二代教会長信一師が教外者の助かり、地域社会への貢献をも願いお取次にあたる。布教七十年の際には信徒用墓碑を教会墓地内に建設、希望する信徒の御遺骨も納められている。

近年、会堂の老朽化のため、行政より全面改築を求められたため、鎌倉教会との統合という御影を蒙り、稲村ガ崎に新しく教会を建築。現在、後継の次男智行師と共に御用をすすめている。

^{注1} 旧名鶴見、令和四年十二月十五日新名認可、令和二年十一月十一日鎌倉教会と統合、令和五年大磯教会を合併予定